

## 芸術学部（学士（芸術））の教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）

芸術学部（芸術）では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って21世紀における芸術の持つ社会的先導性にかんがみ、学科の各々の専門教育をさらに充実・発展させ、同時に、学科の垣根を越えた総合的な教育課程を編成し実施する。

下表の「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために、芸術・文化全般にわたる初年次教育、芸術教養教育、専門教育、キャリア教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに、講義・演習・実習・実技等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また、学修成果の評価は、専門的な知識・技能および態度を修得する授業科目に関しては、授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により、各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し、「憲章」に示される日本大学マインドおよび自主創造の8つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては、卒業の達成を測るための授業科目の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素（コンピテンス）	能力（コンピテンシー）	
DP1 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	芸術に関する豊かな知識と教養を基に、社会に対しての倫理観を高めることができる。	CP1 各学科専門科目の理論・歴史部門及び芸術教養科目、体育講義科目等を通じて、芸術に関する豊かな知識・教養を学び、倫理観を高める能力を育成する。
DP2 世界の現状を理解し、説明する力	日本及び世界の歴史や直面している問題を理解し、その多様性について説明することができる。	CP2 各学科専門科目の理論・歴史部門及び芸術教養科目、外国語科目等を通じて、グローバルな視点を持ち、日本及び世界の歴史や直面している問題を理解し、その多様性について、芸術の専門家として説明できる能力を育成する。
DP3 論理的・批判的思考力	得られる情報を客観的に捉え、論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	CP3 各学科専門科目の研究部門及び芸術教養科目等を通じて、様々な情報を基に論理的・批判的な思考やプロセスを持つ能力を育成する。
DP4 問題発見・解決力	事象を注意深く観察して、自ら能動的に課題を発見し、芸術表現を通して解決策を提案することができる。	CP4 各学科専門科目の研究部門及び芸術教養科目等を通じて、世の中の事象を注意深く観察して問題を発見し、芸術表現を通して解決策を提案できる能力を育成する。
DP5 挑戦力	あきらめない気持ちで、芸術分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。	CP5 各学科専門科目の表現技術部門及び体育実技科目等を通じて、あきらめない気持ちで、芸術表現における様々な問題に果敢に挑戦する能力を育成する。
DP6 コミュニケーション力	他者の意見を聴いて、自分と異なる価値観を理解・尊重し、自分の考えを伝え、他者を納得させることができる。	CP6 各学科専門科目の表現技術部門等を通じて、他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを明確に伝え、他者を納得させることができる能力を育成する。
DP7 リーダーシップ・協働力	集団のなかで他者と連携しながら、リーダーシップを発揮することで、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	CP7 各学科専門科目の表現技術部門等を通じて、集団のなかで他者と連携しながら、リーダーシップを発揮することで、協働者の力を引き出し、その活躍を芸術の専門家として支援できる能力を育成する。
DP8 省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高め、芸術表現に活かすことができる。	CP8 各学科専門科目の表現技術部門等を通じて、謙虚に自己を見つめ、振り返ることにより、自己を高め、芸術表現に活かすことができる能力を育成する。